

わかりやすい予算書

— ことしのよさん —

飯 豊 町

2019

目次

- | | |
|-------|--------------|
| 01 | SDGs未来都市いいで |
| 02-03 | 当初予算の概要 |
| 04-05 | 一般会計の歳入・歳出内訳 |
| 06-11 | 主な事業 |
| 12-13 | 財政健全化指標 |

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「エスディーズ」

「持続可能な開発目標(SDGs)」は、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものとして、日本も積極的に取組を進めています。

SDGsは、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲット(目標)、これらの目標達成に向けた進捗状況を測る230のインディケーター(指標)で構成されています。

地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind)社会の実現をめざし、全世界共通の目標として、経済・社会・環境の諸課題を統合的に解決することの重要性が示されています。先進国・発展途上国を問わず、様々な国・地域ですでに取組がはじまっています。



2018年6月

「エスディーズ」

飯豊町は「SDGs未来都市」に選定されました

全国29都市

本町が昭和40年代から一貫して取り組んできた、住民自らが地域のあるべき未来の姿を考え、主体的に地域づくりに参加する「手づくりのまち いいで」。地域資源を活用した自立したまちづくりは、SDGsの理念や目標、世界の指針と重なります。

これまで先人たちが築き、守り続けてきた成果は、ここに住む私たち一人ひとりの心に宿っています。

キーワードは「持続可能なまちづくり」。課題が山積する困難な時代こそ、夢を抱き続け、孫へ、ひ孫へ、この美しい飯豊の地を継承していくため、これまでの歩みを止めることなく、新たな「手づくりのまち いいで」に向けて取組を進めていきます。



2018年6月 総理大臣官邸

当初予算の概要



自治体の1年間の予算

予算とは、4月から翌年の3月までの1年間の収入と支出の見積もりです。新しい年度が始まる前に、その1年間でどのくらいの収入があるのか、1年間の行政サービスをどのように行うのかを計画し、そのために使うお金を見積もります。予算を見れば、1年間に飯豊町でどのような収入があり、何に使っているのかがわかります。

飯豊町の2019年度予算

一般会計、特別会計、企業会計すべての会計を合わせた金額は、117億9,514万円です。

特別会計には、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計、下水道事業特別会計などがあります。特定の収入(保険料など)によって賄われている事業は、一般会計とは分けて経理します。

一般会計とは、飯豊町の行政サービスの基本的な分野、福祉や教育、道路整備などの収入と支出を管理する会計です。

一般会計
87億1,800万円
前年度比 +25.4%
前年度比 +17億6,800万円

企業会計は、民間企業と同じように事業収入によって運営する会計です。飯豊町では、水道事業会計があります。

企業会計
2億9,388万円
前年度比 +3.6%
前年度比 +1,020万円

特別会計とは、特定の目的のための会計で、特定の収入があり、一般会計とは区別して、収入と支出を経理する会計です。飯豊町では、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計など、12の特別会計があります。

特別会計
27億8,326万円
前年度比 ▲12.7%
前年度比 ▲4億325万円

予算編成の方針

2019年度予算の歳出では、新産業集積事業などの投資的経費をはじめ、飯豊中学校大規模改修、公共施設の維持管理費、子育て支援など従来からの住民サービスを継続していくための費用が増加するため、財政調整基金を始めとする各種基金を活用します。

持続可能な財政運営を確保するため、「最少の経費で最大の効果を挙げる」という行財政運営の基本を踏襲し、飯豊町が直面する課題に立ち向かい、道を切り拓いていかなければなりません。そのため、「第4次飯豊町総合計画」、「飯豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現を目指して、施策の計画的な実行に向け、機を逸することなく必要な投資を行うための積極的な予算編成となりました。



予算の決め方と変え方

町長がまとめた予算案を町議会で審議し、議会の議決によって予算が成立します。町長が各課で出された案を自分の考えにそってまとめ、予算案として町議会に提出します。町民を代表する町議会は、提案された予算案を様々な面から審議した上で、議決します。

年度の途中での状況の変化や新しい事態などの変化に対応するための予算を「補正予算」といいます。当初予算と同様に議会の議決を受けて決まります。

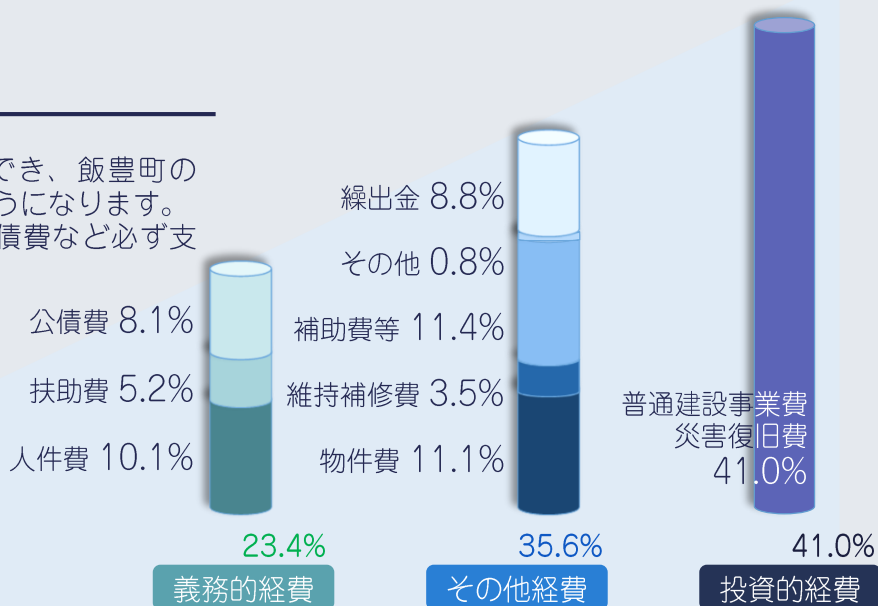


一般会計の歳出内訳(性質別)

歳出予算はサービスの性質別に分類でき、飯豊町の2019年度予算87億1,800万円は、次のようになります。

一般会計予算総額に占める人件費、公債費など必ず支出しなければならない義務的経費の割合は23.4%です。

道路や公共施設の新増設の建設事業に必要とされる投資的な経費である普通建設事業費及び災害復旧費は、一般会計予算総額の41.0%となっています。



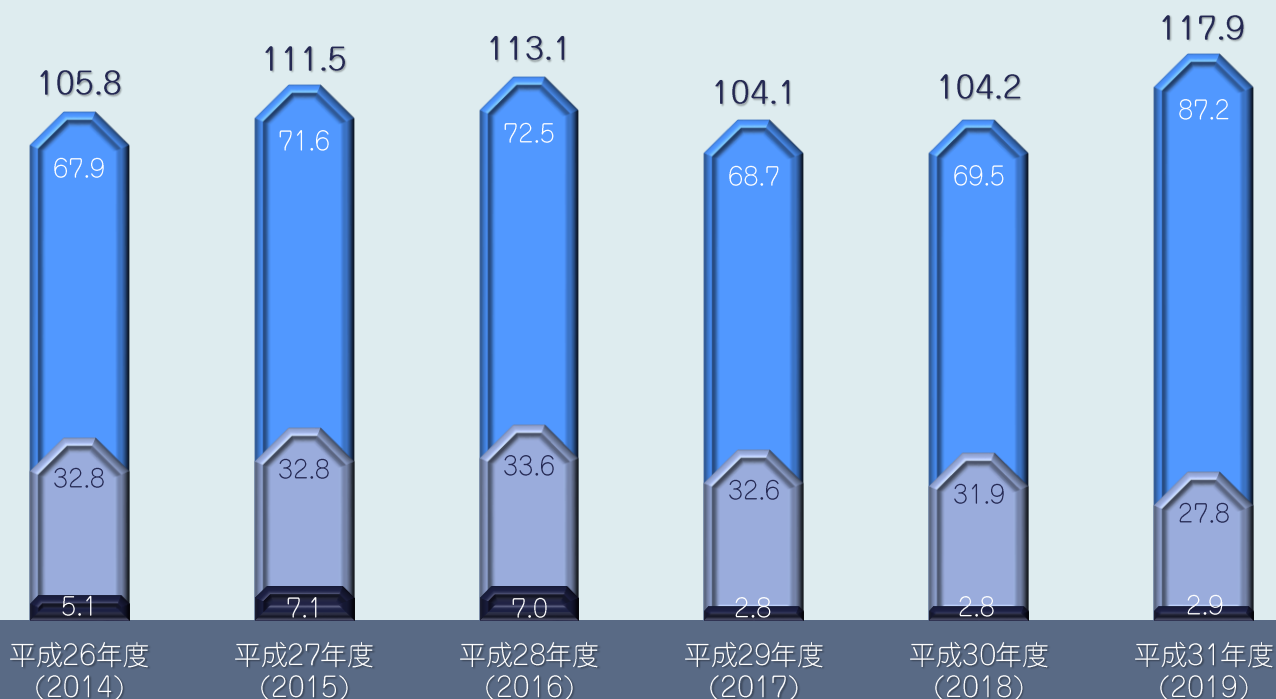
当初予算の推移

一般会計

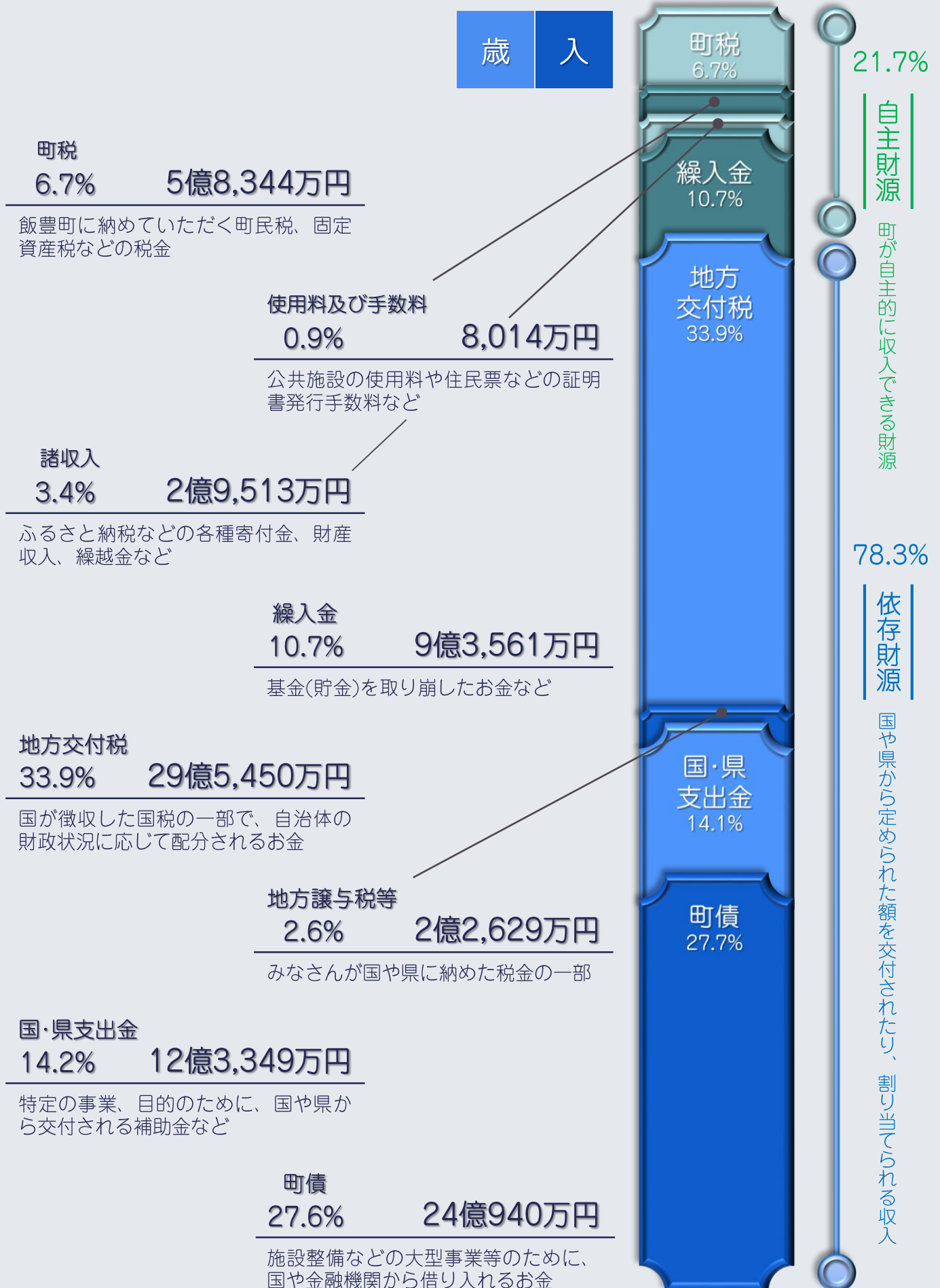
特別会計

企業会計

単位：億円



一般会計の歳入・歳出内訳





歳 出

歳出をサービスの内容区分ごとに分類したものを、歳出の「目的別」の分類といい、民生、教育、土木など13の目的の歳出があります。

2019年度は、新産業集積事業の貸工場整備事業などの商工費が23.2%、子育て支援医療給付など民生費が14.9%、畜産生産拠点整備事業などの農林水産費が14.3%、飯豊中学校大規模改修事業などの教育費が12.9%となっています。

総務費

11.5% 9億9,898万円

役場庁舎の管理や町有財産の維持管理、税金の徴収、戸籍管理、選挙など



民生費

14.9% 12億9,916万円

障がい者や高齢者の福祉サービス、子育て支援、生活保護など



農林水産費

14.3% 12億4,787万円

農業、林業の振興など



商工費

23.2% 20億2,612万円

商工業・観光の振興、中小企業の支援、企業誘致など



土木費

7.2% 6億2,369万円

道路、河川の維持管理や整備、除排雪、公営住宅の管理など



教育費

12.9% 11億2,791万円

小中学校の環境整備、生涯学習、文化財やスポーツ振興など



公債費

8.1% 7億512万円

国や金融機関からの借入金の返済



その他

7.9% 6億8,915万円

議会運営、ごみ処理などの環境保全、消防や災害復旧費など





新産業集積事業

山形大学xEV飯豊研究センターを軸とした「飯豊電池バレー構想」では、リチウムイオン電池関連企業誘致による蓄電デバイス関連産業の集積を図るとともに、既存企業の事業拡張を支援していきます。

新たにより質の高い仕事づくりや雇用の場を創出し、EV(電気自動車)などの分野に精通した高度技術人材を育成していきます。この取組により、若年層の転出抑制や首都圏から地方への人の流れをつくり、「飯豊電池バレー構想」の実現と地域経済と雇用確保の好循環による農山村の経済的な自立を目指していきます。

こだわりの産業づくり
可能性をひらく種

14億3,540万円

貸工場整備事業

飯豊で育てた人材などを地元や地域内への雇用に結びつけるため、2020年中の稼働開始を目指し東山工業団地へ新産業集積事業貸工場新築工事に着手します。

山形大学xEV飯豊研究センターなどで開発された製品の製造工場誘致を実現するため、共同研究企業と連携して取組を進めてまいります。



完成予想図



こだわりの産業づくり
可能性をひらく種

3億5,000万円



専門職短期大学整備事業補助金

山形大学、山形銀行、学校法人赤門学院、飯豊町によるプロジェクトチームを編成して、専門職短期大学の開学に向けた準備を行います。企業が求める人材像やどのような人材を採用したいのかなどを把握し、その人材を育てるために必要なカリキュラムの編成や実務家教員の確保に努めていきます。2021年4月開校に向けて、学校法人赤門学院が文部科学省への認可申請の準備を進めるとともに、町は、専門職短期大学整備費用に対する補助金の交付を行います。



イメージ写真

こだわりの産業づくり
郷土をたがやす種

1億8,200万円

家畜排せつ物等を利用したバイオガス発電事業プロジェクト

米沢牛の約4割を生産する主産地として確固たる地位を築き上げる飯豊町。畜産業をさらに発展させるため、民間事業者が主体となり、眺山地内において「家畜排せつ物等を活用したバイオガス発電事業プロジェクト」に取り組みます。畜舎から出る家畜排せつ物をパイプラインで直接バイオガスプラントに搬入し、メタンガス化し発電、処理するものです。臭気を抑制するこの手法は、畜産業の環境改善も目的にした取組です。



こだわりの産業づくり
郷土をたがやす種

9,070万円

畜産生産拠点整備事業

眺山地内において、町が畜産団地を整備します。畜産事業者が畜舎を建設し、繁殖牛を増頭して地域一貫の畜産業に取り組み、生産基盤を強化します。発生する家畜排せつ物は、パイプラインでバイオガスプラントに搬入し、環境に配慮した畜産経営を展開します。



こだわりの産業づくり
郷土をたがやす種

6,607万円

畜産振興事業

家畜排せつ物を地下埋設パイプラインでバイオガスプラントに搬送するため、畜産事業者が、既存牛舎の建替えを含め、畜舎6棟の施設整備を行い、町が支援をします。周辺環境の保全やコストの削減、増頭による規模拡大と経営強化を図っていきます。

1億5,824万円

椿住宅団地整備事業

旧置賜農業高等学校飯豊分校跡地に整備を進めている住宅分譲地「エコタウン椿」が、2019年度に完成、分譲開始します。国が示す次世代基準の省エネ型住宅よりも、更に高性能かつ環境や健康にも配慮し、県産木材を使用した「飯豊型エコハウス」を、町内事業者が建設します。

「エコタウン椿」では、低エネルギー型の新しい暮らしと、地域経済の循環を促しながら、快適で自然と調和した『飯豊らしい豊かな暮らし』を体現していきます。



イメージ写真



にぎわいあふれるまちづくり
縁をつむぐ種



にぎわいあふれるまちづくり
縁をつむぐ種

1,953万円

移住定住推進事業

人口減少対策として、町への移住促進と、住み続けたくなる環境づくりを進めています。首都圏での移住フェアにおける飯豊町の紹介や、首都圏在住の女性を対象に、飯豊町の暮らしと魅力を体験するツアーを実施しています。「ふるさと定住いいですね条例」では、住宅取得奨励や、お子様の入学、結婚などの人生の節目における祝品贈呈により、町での暮らしを応援します。



にぎわいあふれるまちづくり
人をはぐくむ種

1,323万円

地域づくり推進事業

各地区が自らの「地区別計画」の実現に向けて行う地域の取組に「地域づくり推進事業費補助金」を通して支援していきます。

今年度から「第5次総合計画」策定に着手します。自分たちの地域は自分たちの手で作り上げる「手づくりのまちいいで」の取組を進めていきます。





豊かな感性を育むまちづくり
人をはぐくむ種

4億7,916万円

飯豊中学校大規模改修事業

平成3年度の校舎建設から、約30年近く経過した飯豊中学校。子どもたちの教育環境を整えるために、屋根や外壁、トイレの改修、設備更新などを行い、子どもたちにとって、より良い教育環境の提供を行います。併せて、町民スポーツセンターの改修整備も行います。



自然と共生するまちづくり
郷土をたがす種

1,438万円

森づくり支援・造林事業

林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図ります。森林の保全管理や計画性を持った資源の有効活用、森林病虫害対策に努め、国土調査事業を継続して実施します。

バイオマス産業都市として、財産区の経営計画策定や木質バイオマス燃料の供給体制確立、公共施設等でのバイオマス燃料への転換など、木質バイオマス資源の総合体制整備を進めていきます。



安全・快適なまちづくり
郷土をたがす種

2億4,995万円

除雪事業

冬期間の道路交通を維持するため、道路の除雪や消雪を行い、安全・安心な生活を確保します。

高齢者世帯等には、除雪ヘルパーの派遣等を通じて支援していきます。

414万円

町営学習教室「いいで希望塾」

豊かな感性を育むまちづくり
人をはぐくむ種



飯豊町の将来を担う人材育成を目指し、2015年から継続してきた「町営学習教室 いいで希望塾」。①学習の習慣、②学ぶ意思、③やればできるという自信の3つを育む教育を実施しています。

5,657万円

子育て支援医療給付事業

にぎわいあふれるまちづくり
世代をつなぐ種



県内でも早い段階から実施してきた年齢18歳までの医療費の無料化や、重度心身障がい児やひとり親家庭等の医療費助成により、子育て世代等の経済的負担軽減を図っていきます。

379万円

結婚支援事業

にぎわいあふれるまちづくり
縁をつむぐ種



未婚の子を持つ親を対象に「親のための婚活講演会」、未婚者の結婚への意識を醸成する「自分力UPプログラム」、婚活サポーターが未婚の男女の出会いをサポートする「いい出会いサポートセンター」の創設などに取り組んでいきます。

788万円

高円寺チャレンジショップ運営事業

こだわりの産業づくり
縁をつむぐ種



2014年に杉並区高円寺にオープンした「高円寺純情コミュニティーカフェ&ショップ IIDE」が2019年3月にリニューアルオープンしました。本町産の美味しいつや姫で作る「おにぎり」販売を中心に、全国へPRしていきます。

ご紹介した事業以外にも、飯豊町ではたくさんの事業を展開しています。

100万円

福祉型小さな拠点づくり事業

生きがいと笑顔のまちづくり
世代をつなぐ種



町社会福祉協議会「集落ワケヨク」

地域住民が主体となって運営する集いの場づくりを推奨し、高齢者の介護予防につながる活動を行いながら、互いに支え合い暮らしていくことができるような絆と仕組みの構築を図っていきます。

778万円

空き家対策事業

安全・快適なまちづくり
郷土をたがやす種



イメージ写真

本町のみならず、全国的な課題となっている老朽危険空き家。2018年度に策定した「飯豊町空き家等対策計画」に基づき、空き家の適正管理と利活用を促し、老朽危険空き家の解体に向けた対策を進めます。

1,152万円

地区まちづくりセンター事業

にぎわいあふれるまちづくり
人をはぐくむ種



2018年から各地区公民館にある「地区まちづくりセンター」の機能を見直し、集落支援員を配置して、自立した地域運営ができるように、地域住民とコミュニケーションを密にし、地域づくりを行っていきます。

384万円

飯豊・農の未来事業

こだわりの産業づくり
郷土をたがやす種



2015年に開始した「飯豊・農の未来事業」は5年目を迎えます。稲作から他の土地利用作物への転換や水田の有効活用、担い手の育成など、新たな農業を切り拓き持続可能な農業の実現に向けて取り組みます。

財政健全化指標

実質公債費比率

単位：%



実質公債費比率は、一般会計等が負担する地方債の元利償還金(町の借入金の返済金)などの標準財政規模に対する比率です。この指標が18%を超えると起債(借金)をする際に知事の許可が必要となり、25%を超えると一部の起債が制限されます。

10年前(平成21年度)は15.3%。平成29年度は6.8%です。

将来負担比率

単位：%



将来負担比率とは、地方債や職員の退職金など、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率です。この比率が高い場合、将来これらの負担額を実際に支払う必要があることから、今後の財政運営が圧迫されるなどの問題が生じる可能性が高くなります。

10年前(平成21年度)は103.1%。平成29年度は47.3%です。

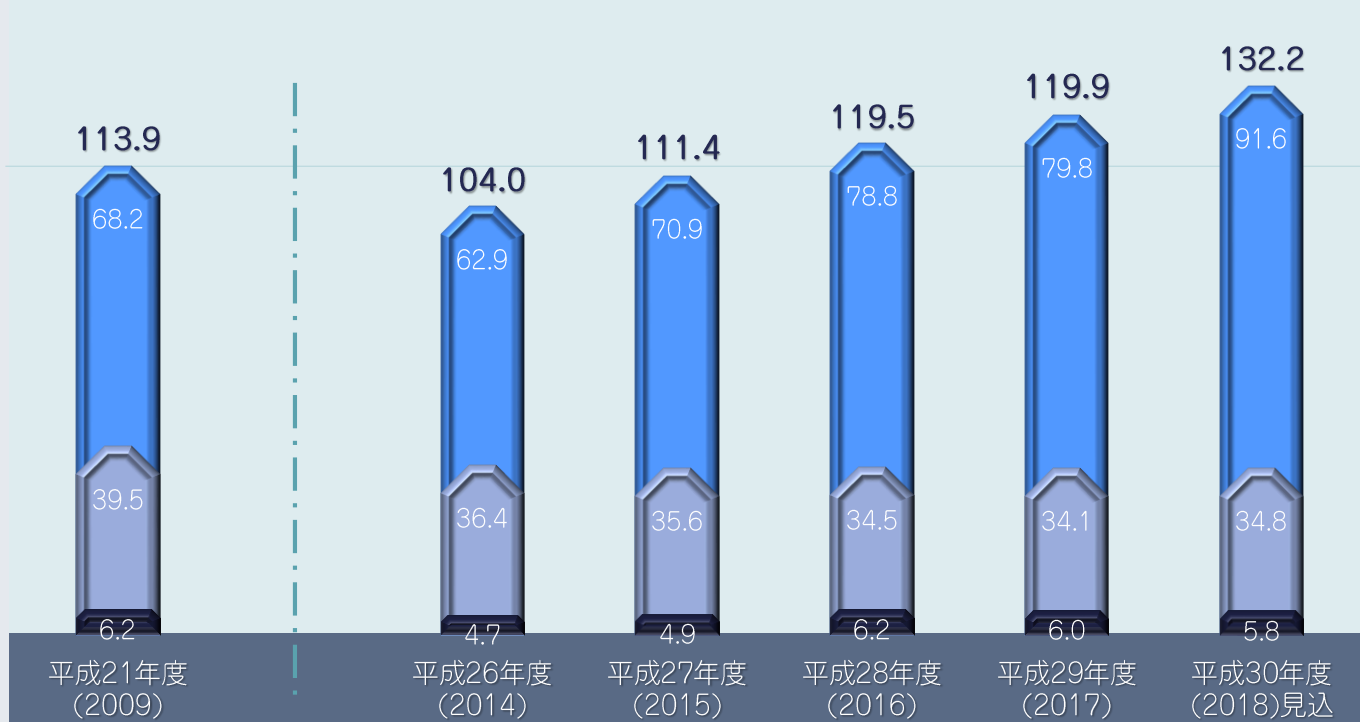
町債残高

一般会計

特別会計

企業会計

単位：億円



町債は、大きな事業をするときに、国などから借り入れる借金です。道路や建物などは、たくさんの方が利用することから、その年の予算だけで賅うのではなく、将来の町民の方にも費用負担いただく「負担の公平化」も、町債を発行する理由の一つです。

10年前(平成21年度)は約113億9千万円。平成30年度は132億2千万円になる見込みです。

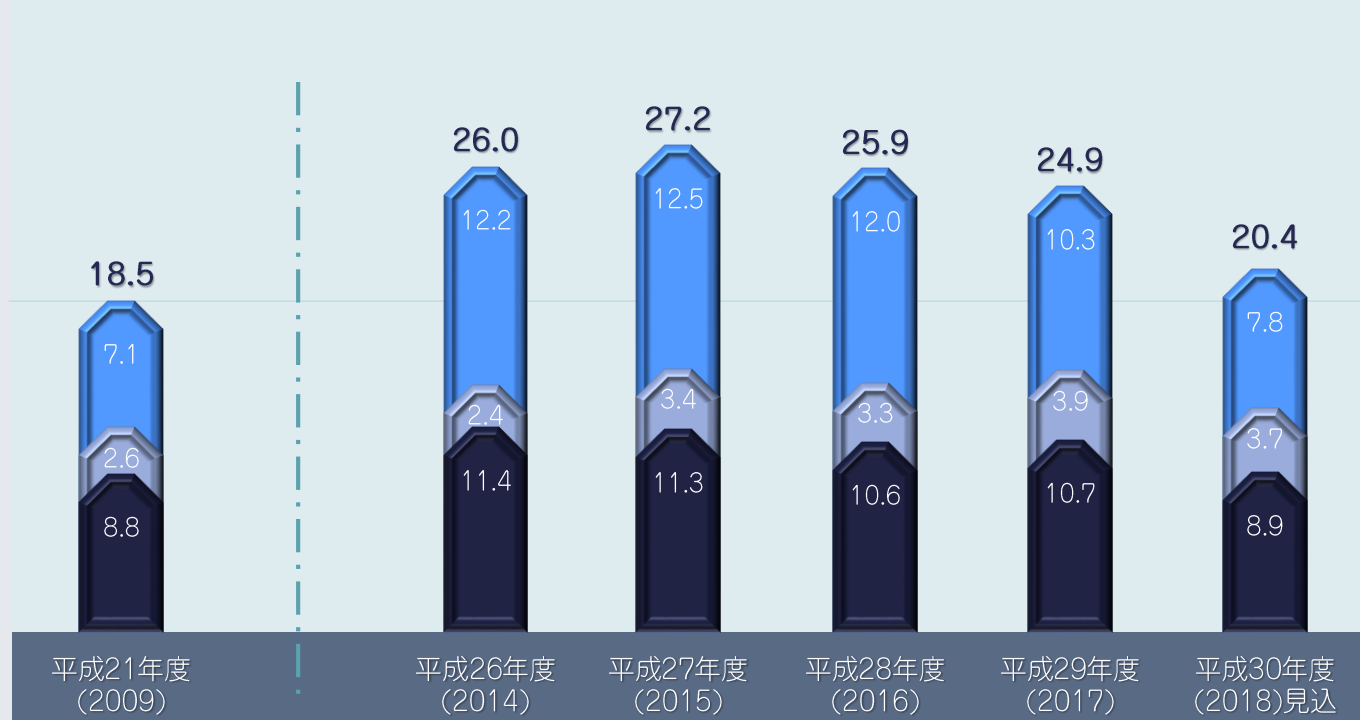
基金残高

財政調整基金

減債基金

その他基金

単位：億円



基金とは、特定目的のために財産を維持し、資金を積み立て、または定額の資金を運用するために設ける財産です。家庭で言えば貯金です。年度間の財源不足に備えるための「財政調整基金」、町債の償還(借金の返済)に必要な財源を確保し、財政の健全な運営を行うための「減債基金」などがあります。

10年前(平成21年度)は、約18億5千万円。平成30年度は20億4千万円になる見込みです。

わかりやすい予算書
飯豊町 2019



〒999-0696
山形県西置賜郡飯豊町大字椿2888番地
TEL (0238)72-2111

飯豊町はNOP法人
「日本で最も美しい村」
連合に加盟しています



the most beautiful
villages in japan

飯豊町
山形県